

芸術と技術と 社会資産と

アーキニアリング・ デザインとは何か――

二〇二二年十二月九日、The Okura Tokyoにおいて「日建連表彰二〇二二」の表彰式が行われ、筆者らは「有明体操競技場」に対して栄ある第六十二回BCS賞を受賞することができた。東京五輪の新設施設としては唯一の受賞である。その設計者として、(株)日建設計、清水建設(株)とともにA Forumの名を連ねさせていただいた。式の会場で何人かの方から声をかけられた。「A Forumって何ですか?」「どんな設計事務所なんですか?」と。

A ForumとはArchitectural Design (AND) Forumの略。ANDの理念の実現と構造設計・構造デザインに関心を抱く方々に積極的かつ自由に活用していただくための「集いの場(フォーラム)」として二〇一三年に設立した。更にANDとは、ArchitectureとEngineering

の融合・触発・統合の様相(有様・成果)を意味する言葉。二〇〇七年に(一社)日本建築学会(AIJ)から発せられた理念である。意外にも、この(一社)日本建設業連合会が発行している『ACE』もArchitecture & Civil Engineeringとなっており、両者の比較は意義深い。

ところでAIJが目指すべき目標は、学術・技術・芸術の発展とされている。まず、学術と技術の関係である。今学術を科学と工学に分けて考えてみよう。科学・工学は技術を駆使する際のToolであることは言うまでもないが、時として認識を誤ることがある。

例えば力学や材料・施工・コンピュータが成熟していれば何でもできると錯覚し、大きな失敗を招くことがある。新しいアイデアや閃きは人間力であり、解の唯一性を求める「科学」と、多様な選択肢から最適な解を模索する「技術」とは違う。今日、そのことをしっかりと理解す

A-Forum代表
日本大学 名誉教授
齋藤 公男



Masao Saitoh

ることの大切さは言うまでもない。

通常の「想像から実現へ」のベクトルだけではなく、「テクノロジーからイメージ」へのベクトルを加えた相対的なベクトルの有様が「AND」の理念にはこめられている。ここからAIJ主催の「AND展」(二〇〇八年)がスタートし、更にA Forum主催の「AND賞」(二〇二〇年)が設立され、現在も活動中である。

果たして「AND」なる理念が生まれた起点はどこなのか。遡って振り返れば、そこには約六〇年前に建設された「国立代々木競技場」(「代々木」一九六四年)がある。

「代々木」からの メッセージ―― 日本を飛翔させた 大空間

「代々木」は奇跡のプロジェクトと言われる。完成した「代々木」は二十世紀を代表する建築として世界の絶賛を浴び、日本の建設力の高



「代々木」を空から俯瞰する(著者撮影:1989年)

さを世に知らしめた。六〇年後の今もその輝きと評価は少しも変わらない。

ところで「代々木」が残したメッセージとは何であろうか。
第一に建築(家)と構造(家)との高いレベルでの融合(協働)、第二に基本構想・基本計画における「空間と構造」の発想・予見、第三に設計と製作・施工を包括したホリスティック・デザイン、第四にテンション(ケーブル)構造を主役とした軽量構造・空間構造の世界。こうした

挑戦の数々が、個人的だけでなく普遍的創造を「代々木」にもたらしたと言えよう。

空間構造の世界―― 継承される「技」と 「美」のレガシー

「代々木」が拓いた「空間構造」の世界は、同じ頃胎動し始めた国際的学会をも強く揺り動かした。一九五九年、スペインのE・トロハが創設したRCシエルの学会はその後、大きく発展するなかで名称を変える。国際シエル・空間構造学会(IASS)である。IASSを背景にして、日本の空間構造は大きく飛躍していった。「空間構造」の代表は軽量かつ大規模な無柱空間や集いの空間。なかでもスポーツ施設としてのドーム建築は注目される。

こうした大規模建築は「存在」そのものが周辺に大きな影響を持つ。従って単体としてのデザインは内部空間(機能)だけでなく外部形態(外観)にも意を尽くさねばならな

い。美しさと合理性とともに、「社会資産」としての価値を認識する必要がある。

今回BCS賞をいただいた「有明体操競技場」もまた「空間構造」の世界を世に問う代表だと考えた

五輪のレガシーは今

二十世紀後半の近代建築で世界遺産(W・H)の登録第一号は「シドニー・オペラハウス」(一九七三年)。同世代の「代々木」も昨年、日本での重要文化財指定を受け、次に目指すのはW・Hである。近年、大規模な耐震改修もなされ、六〇年前の五輪施設が新しいレガシーとなることを世界が注目している。そしてオリンピックの体操競技場から展示場への利用転換が計られる「有明体操競技場」に望まれるのは「仮設から恒久建築」への道。「代々木」ともに「芸術・技術・社会」をつないだ五輪のレガシーとして生き続けて欲しいと願わずにはいられない。

※世界遺産=World Heritage (W・H)